

カトリック六甲教会 教会報

2016

6

No.534

ユスト高山右近

蛭田

キリシタン大名として知られているユスト高山右近が、教皇フランシスコにより殉教者として認定され、福者の列に加わることになりました。

あの戦国時代、数々の試練を生き抜き、天国に召されるまで信仰を貫いた右近の生き様に我々信徒としては、心打たれるものが多いように思います。

私は高山右近の足跡を調べているうちに、河内の隠れキリシタンにも興味を持ちました。

1560年1月、三好長慶が命じてキリスト教の布教許可の允許状を室町将軍足利義輝に出させましたが、家臣の松永久秀が比叡山延暦寺を中心とした仏教勢力のキリシタン排斥運動に協力し、都からキリシタンを完全に追放する為に、結城忠正、清原外記（娘は細川ガラシャに洗礼を受けた清原マリア）、高山飛騨守（右近の父）の3人をキリシタン追放の論客として遣わしました。しかし、この3人は盲人の修道士ロレンソ了斎との論争で彼の答弁に感動し、洗礼を受ける決心をしたのです。そして、3人の受洗によって畿内の宣教が画期的に広がりました。

高山右近が高槻城の城主として活躍するまでの間、河内のキリシタンは堺に至るまでの地域を管轄し、河内から堺にかけて、六、七千人の信徒が活躍していたと言われています。

その後、キリシタン弾圧に会い、「隠れキリシタン」として信仰を守り続けたのです。

そんな歴史的な出来事の中においても、高山右近はキリスト教の布教に力を注ぎ、茶道においても千利休の七哲にも挙げられるほど精通していて、茶道の精神「和敬静寂」で人や自然を尊び、清楚に濁りのない心で接し、どんな苦境の中でも毅然とした態度を生涯貫き通しました。これは確固たる信仰の原理と基礎があったからだと思うのです。

ユスト高山右近の列福を祈念して、我々も彼の足跡を訪ね、今一度改めて信仰について考えるのもいいのではないのでしょうか。



城跡公園(大阪府高槻市)にある高山右近の銅像



ナルドの花たより

愛しゆるすこと。これこそが、信仰によって心が変わられる、具体的で目に見えるしるしです。

(5月18日)

聖霊のたまものは豊かに与えられます。それによって私たちは、真の信仰を持ち、活発に慈善のわざを行う生活を送ることができるのです。

(5月16日)

いつくしみをもって交流するということは、神の子らや人類兄弟の間に健全で、自由で、兄弟愛に満ちた親密さを生み出すことです。

(5月15日)

私たちの心と行いが神の愛によって触発されていれば、そのコミュニケーションは神の力を伝えるものとなるでしょう。

(5月14日)

修道者の皆さま、世を目覚めさせてください。異なった考え方、行動の仕方、生き方を示すあかし人となってください。

(5月13日)

私たちが語ること、語り方、あらゆる言葉と姿は、全ての人に対する神の共感、いつくしみとゆるしを表していなければなりません。

(5月11日)

カトリック中央協議会 教皇フランシスコのツイート（邦訳）より



2016年度第1回小教区評議会議事録

日時 : 2016年5月8日(日) 12:00~13:00
場所 : 信徒会館 第4会議室
出席者 : アルフレド主任司祭、議長団、評議員、その他関係者



1. 主任司祭挨拶
2. 協議事項
 - (1) 2015年度決算について
3. 報告事項
 - (1) 「イエズス会教会使徒職委員会 拡大会議」報告
 - (2) 「4月度神戸地区宣教司牧評議会」報告
 - (3) 「受洗者への六甲共同体説明会」報告
 - (4) 地区役員会報告
 - (5) その他各部、各会からの報告
 - (社会活動部)
 - (広報部)

(三日月会)

(宣教部)

次回 小教区評議会：7月10日(日) 12:00～ 第4会議室

《行事報告》

初聖体・祝福式感想(4月3日)

4月3日(日)六甲教会の桜が満開を迎える中、新3年生の子どもたちは初聖体・祝福式にあずかることが出来ました。2年生クラス初日、あまりの元気よさに驚くと同時に、1年後無事初聖体・祝福式を迎えることが出来るのかな?と心配していました。

しかし、この1年で心身ともに大きく成長しました。一日錬成会では十字架の道行やゆるしの秘跡、沈黙の中でイエス様を思いながらみんなで昼食を食べたり、様々な経験をとおして心の準備をしました。そして、それぞれがご聖体と祝福をとおしてよりイエス様と神様に近づけました。あれから早2か月経ちますが、子どもたちが神様の子どもとして健やかに成長してくれますように。

最後になりましたが、子どもたちの初聖体・祝福式のために準備をしてくださった保護者の皆様、教会の皆様ありがとうございました。これからも、あたたかく子どもたちと教会学校を見守っていただけたらと思います。感謝と祈りのうちに。
(2年生担当リーダー 久保)

子どもたちの感想

私とおねえちゃん、はつせいたいがおわったあとに自分たちで小せいどうを作って、朝昼ばんと毎日おいのりをしてろうどくをしていると、本当に神さまの声が聞こえました。これからは、もっとおいのりをふやして神さまの声をたくさん聞きたいです。
(見市)

二年生での一年間いっぱいはつせいたいしゆくふくしきのれんしゅうをしました。しゆくふくでかみさまに近づけたきがしました。三年生でもかみさまのことをいっぱいしてもっとかみさまにちかづけたらいいなと思いました。
(土井)

はずかしかったけど、がんばりました。

(壽)

しゆくふく式をうけられてうれしかったです。かみさまがおしえてくれたとおりに、ゆるしのひせきで言ったことを一回もしていません。ゆるしのひせきの後、「自分でゆるしのひせきで言ってよかったな～」と思いました。わたしがまた、わるいことをしてしまったらその場でおいのりします。

(田中)

ろうどくで、すごいままで一番きんちょうしました。でも、うまく言えてうれしかったです。さいごにイエスさまがのこしてくれたパンをたべられるようになってイエスさまにすこしかづいて、うれしかったです。このパンをたべて、もっと心を元気にしたいから、毎週日曜日に教会にきたいです。ろうどくで、一つまちがえてしまったけれど、ふじいさんのおかあさんが、「ききやすかった。」とってくれたからろうどくをやってよかったと思いました。パーティーでも一年生や一年生



のおかあさん教会の人たち、しんぷさま、おかあさん、おとうさんでごはんやかざりつけ、プレゼントはなかんむりをつくってもらってすごく楽しかったしうれしかったです。
(タン)

保護者の感想

今回、娘の初聖体の祝いを、三年生のお友達と一緒に、たくさんリーダーそして神父様に支えて頂きながら迎えることができ、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。教会学校の一年間のクラスを通して、少しずつ心の準備をしている姿が見られました。特に錬成会で洗足体験をしたり、十字架の道ゆきについて勉強する中で、イエス様が私達をどれだけ大切に下さっているのか感じている様子でした。娘が私や長女に声をかけ、「皆でお祈りしましょう。」と声をかけてくれて静かにお祈りの時間をとることもあり、家族みんなで神さまに心を向けることができました。娘の初聖体のお祝いですが、家族みんながまた神様から新しいお恵みの種を頂いた気持ちです。これからも子供達と一緒に神様の子供として新しくスタートしたいです。
(見市)



子どもたちはこの2年間で仲よくなり、とてもにぎやかに、和やかに初聖体祝福式を迎えることができました。母同士も準備などで親しくなれたのもうれしいことです。教会の方々のお支えに感謝しています。子どもたちの素直な神さまへの気持ちを感じました。
(土井)

祝福式を終えて、教会学校のリーダーをはじめ子供たちを暖かく見守って支えてくださったすべての方々から心から感謝いたします。いつもとちがう娘の顔が見れて成長を感じました。パーティーの準備をしてくださったお母様方に感謝いたします。すごくステキな楽しい時間を過ごせて良かったです。ありがとうございました。
(壽)

この度は、初聖体・祝福式を盛大にお祝いして頂きありがとうございました。
休みがちな教会学校で、ちゃんとお話を聞いているのだろうか？理解できているのかと心配していましたが、リーダーの方をはじめ優しく接して下さったお友だちのおかげで、洗足式やゆるしの秘跡等も行いう事が出来ました。

式のミサでは、祖父母にも見守られる中、白衣に十字架、花冠の娘が祝福を受けている姿に感激しました。

娘は終わった後、「今度は初聖体を受けたい！」と話していましたが、これからも神さまの子どもとして歩むべく学びの中でいつか洗礼を受けたいと自ら言える日が来ることを祈りたいと思います。

最後になりましたが、初聖体・祝福式、パーティーの準備にご尽力下さった全ての方々と神さまのお導きに心から感謝致します。

(田中)



去年の初聖体・祝福式のお祝いのパーティーのお手伝いをした時は、“ああ、こんな感じなんだなあ”と漠然と思ってました。が、あっと言う間に1年が過ぎてしまいました。色々お勉強もしていた様ですが、親の私にはなかなか見える事はなく、初めて道行と洗足体験を親子で試みて、じわじわと実感することが出来ました。初聖体・祝福式の当日は、子供が第一朗読をさせてもらいました。本人は、ずっと朗読する事に慣れていたので、よく練習をしていました。私はたぶん読んでいた本人よりも緊張していたと思います。

共同祈願でも言ったのですが、子供が神様に愛されている事を自覚して、周りの人達を大切にすることが出来るようになって欲しいです。
(タン)

《行事報告》

社会活動部学習会「安保法制と今後について」(4月24日)

4月24日(日)、10時ミサの後、社会活動部主催のセミナーが開かれました。笠松健一弁護士による「安保法制と今後について」がテーマで、参院選も近づいている今、関心も深く、多くの方が聞きに来られました。笠松弁護士は、分かり易いレジメと多くの資料を用意され、誰にでも理解しやすく、丁寧に今の安保法制の問題点と自民党の考えている憲法改正案について解説されました。



日本が戦争に巻き込まれる危険性のある安保法制については、具体例を挙げながらの解説。そして、自民党の考える憲法改正のポイントとして、①天皇の地位を高め、国民主権の後退、②国民の人権保障を後退させ、公益、国益に変えさせる法案、③日本の平和主義の否定など挙げられ、現行の憲法と比較をしながらその違いを明確に述べられました。

これからの日本の行く末を考える時、7月の参院選は重大で、子供達や孫達の為にも我々一人ひとりがこの問題に真剣に取り組み、投票しなければならないと思います。将来に禍根を残さない為にも。
(広報部 蛭田 武)

4月24日(日)のミサ後、信徒会館の第1、第2会議室に他の教会からの参加者も、又、両神父様のお顔も見え、ほぼ満席の中、笠松弁護士による学習会が開催されました。講師が用意してこられた30ページに亘る「日本国憲法改正草案」の条文、そして「憲法の基本原理と集団的自衛権に関連する条項」など、又、2014年7月に閣議決定した「安全保障法制」についての相当厚い資料が配られました。これらの条文は、法律用語にうとい私には、いささか難解でしたが、ページを追いながら説明をお聞きする程に、現政権が目論む憲法改正でわが国がどこに向かうのか、憲法とは何の為に誰の為にあるのかなど、なんとなく個人の自由に枠をはめたり、特定の価値観を押しつけようとしていることに気づかされました。又、弁護士会が、集団的自衛権の行使を解釈変更で認めることに反対の立場をとられている事も理解致しました。最後の質疑応答に、「選挙に行っても自民党には、いれない。」と発言されたかたがおられました。この問題をそれぞれ個人が自分の事として真剣に考えるヒントとし、最後に「諦めず、集会パレードの参加や、署名運動も有効である」と言われたのが印象に残りました。



毎年社会活動部の学習会は、秋に主に福祉の問題について学ぶのが多かったのが、今回は異色の政治の問題を取り上げたのは、現政権が夏に行おうとする参院選の前に改憲論が叫ばれている時だけに、グッドタイミングに思われました。
(社会活動部 金子)

《行事報告》

「傘寿感謝のミサ」顛末記 (5月11日)

六甲教会在籍の1936年生まれの信徒は27名居られます。5月11日に19名の方の参加を得てコリンズ神父司式のもと「傘寿感謝のミサ」を行いました。ミサ後のお茶会の席で次のことが決まり

ました。当日欠席された方にもお知らせしたいと教会報に掲載をお願いすることにしました。決まったことは①昭和11年生まれにちなんで会名を「11年会（イトシ会）」と称する。②毎年11月の最初の日曜日を11年会の祈念日とし、互いに祈り合う日とする。③同年生のフランシスコ教皇を特別名誉会員として推挙する。以上のことが楽しいお茶会の席で満場一致で決められました。

当日のミサの福音書はヨハネの17章11節からのイエスの祈りの場面でした。最初の言葉は「聖なる父よ、わたしに与えてくださった名によって彼らを守ってください」です。感謝のミサで、「私たちのためにイエスが御父に祈って下さる」と不思議な導きで一際強く心に響きました。すでに天国に居られる仲間も、些か疲れが見えてきた我々も、これからも祈りのうちに一緒に歩み続けることを願った集いでした。
(藤原)



《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします

三日月会

6月20日(月) 14:00 ミサと懇親会

施設管理部

6月26日(日) 12:00 部会

典礼部

6月26日(日) 11:15~16:00 侍者練成会

7月3日(日) 11:15~16:00 侍者練成会

広報部

7月3日(日) 教会報7月号発行

《お知らせ》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★社会活動部より★

6月1日(水) 10時 手芸の集い(第1、第2会議室) どなたでもご参加できます。

6月11日(土) 10時 炊き出し (イグナチオホールお台所)

小野浜にて、おじさん達のお話相手や配食だけでもOKです。

6月19日(日) 10時 ミサ後 ふれあい広場 (イグナチオホール)

6月27日(月) 9時半 ともしび会 ケーキ作り (イグナチオホールお台所)



熊本地震・支援募金協力に感謝!

皆様のご協力に心から感謝申し上げます。この募金に愛の献金をカトリック大阪大司教区へ送金いたしました。災害対策委員会より、熊本や大分援助に使用されます。
(社会活動部)

祈りと音楽の集いのお知らせ

今年度の祈りと音楽の集いはコーラスを中心に企画しております。今回は女声アンサンブルの「アンサンブル・イソジーナ」のコーラスとオルガンです。マリア賛歌・ミサ曲・聖霊の続唱などを、グレゴリオ聖歌やオルガンを通じて、祈りの音楽の時を持ちたいと思います。みなさまのご参加をお待ちしております。

日時：6月19日(日) 13時半開場 14時開演

演奏：アンサンブル・イソジーナ

※詳細は、チラシをご参照下さい。





2016年03～04月に購入した高山右近に関する図書(9冊)

☆ ユスト高山右近—— いま、降りていく人へ 古巢 馨 著 ドン・ボスコ社

利休も官兵衛も利家も、その生き方に憧れた。競い合う時代、あえて降りていく道をたどった右近。時代を模索する人たちが、今また右近を追い求めている。著者は長崎教区神父でカトリック司教委員会列聖列福特別委員会委員。なお ユスト(スペイン)・ジュスト(ポルトガル)：義の人の意

☆ 高山右近—— 【パラソへ まいろや】 アントニオ・セルメニオ 著 サンパウロ

高山右近のすべての業の最大の目的であり唯一のあこがれは、神の栄光と人びとの救いであった。今や、彼は殉教の栄冠をいただき、キリストのみ教えに生きた英雄として、その真の姿を日本人の前に表し、我々を親しく励まし導いてくれる。

1997年日本26聖人殉教400年にあたり、1965年に書かれた本を改題し、体裁を変更して発行された。

☆ 漫画 キリシタン大名 高山右近 青山 むぎ 著 いのちのことば社フォレストブックス

『地位、財産、己が命、すべてを捨てても、この信仰は貫き通す』

ヨーロッパにまでその名が知られ、信長、秀吉、家康に一目置かれた戦国武将・高山右近の波乱に満ちた壮快な生涯。

☆ う～こんどのと歩く —— 高山右近 ガイドブック 女子パウロ会

生誕の地 - 高山(豊能)、受洗の地 - 沢城(榛原)、右近の城下町高槻と船上城(明石)、信長の安土や秀吉の伏見、利休や小西行長の生まれた堺、伴天連追放令後に身を隠した能古(福岡)・淡路・小豆島、客将と迎えられた金沢・七尾・高岡、出港地長崎と最期の地マニラなどのゆかりの地をガイドする。

(付録) “殉教者” 右近の列福の根拠(溝部司教) 右近の伝記(五野井教授) 周囲の人物と年表

☆ 高山右近史話 チースリク 著 聖母文庫 2003年

高山右近の偉大さは大名の資格にではなく、その完璧な信仰生活にある。海老沢有道博士の言うように『戦国の世に覇を唱え、他に打ち勝つのが英雄であるのなら、右近は敗残者の一人に過ぎない。だが、彼の敗残は人生の勝利の姿であり、右近こそ身をもって生きた英雄である。』

☆ 天を想う生涯 キリシタン大名 官兵衛と右近

守部喜雅 著 フォレストブックス 2014年

乱世の時代清廉な生き方を求め、それまでの日本人にはなかった「天を想う生涯」を全うしたキリシタン大名・高山右近。そして彼に導かれた黒田官兵衛。人々の心が乱れ、将来の展望も定かでないまま混迷の今の時代へ、二人の生涯の真実が発信しているメッセージは・・・。

☆ 高山右近の足跡を歩く 嶋崎賢児 写真-文 三学出版 刊 2014年

下剋上を競い合った戦国の世に、己の信念を曲げず六万石を放棄した大名がいた。武士道でみがかれた信仰によって、高められた神への忠誠心は、祖国追放の試練においても微動だにしなかった。

高山・沢城・高槻・安土・賤ヶ岳・明石・小豆島・伏見・洛中・金沢・長崎 川邨神父や大塚司教も登場。

☆ キリシタン大名・高山右近 谷 真介 著 女子パウロ会 刊 2011年

世は下剋上の戦国時代。信長・秀吉・家康とめまぐるしく変わる勝者。キリシタンとしての誠実を貫き通すことのむずかしさ。右近の武将としての力量と人望を恐れた家康は、マニラへの追放を決断する。

☆ **高山右近 戦国人物伝** 加来 耕三 企画構成監修 ポプラ社 刊 2016年
志操堅固！ 地位を捨てて信仰を貫いたキリシタン大名！ コミック版 日本の歴史 49

—— この間 購入された「高山右近」以外の本2冊。

☆ **聖ペトロ カニジオの生涯** ホアン カトレット 著 教友社

16世紀のカトリック教会で大きな働きをして、「ドイツの第二の使徒」といわれたホアンカニジオ神父の足跡から学ぶ。未来に向かうための信仰生活と霊性の規範。「カニジオ神父は、その温和さと愛情と忍耐強さ、ドイツにおけるカトリックの刷新をやり遂げた」（前教皇ベネディクト16）

☆ **ヤン・ロータン神父の生涯** ホアン カトレット 著 教友社

フランス、スペインの策略で廃止されてから40年後(1814年)に復活したイエズス会の第21代総長(1829-53)として、迫害の嵐の中、宣教活動の再開、「霊操」の重視を掲げて会の復興を果たした。ロータン神父の最後の血の一滴まで捧げようとして生きた生涯を描く。イエズス会第2の創立者と称えられる。



みんなの広場

6月24日のこと

ヨハネ 三好

「誕生日は」。「6月24日」。否応なし、これで決まってしまいました。その時、名前は知っていたがどういう人かまでは知らなかった。通っていた幼稚園が「ヨハネ幼稚園」だったと聞いていたから「ヨハネ」には何となく愛着はあったようです。後に色々知るようになって、これはとんでもないことになったと思ったことを覚えています。武宮神父様が受洗祝いにくださった本に書いてくださった聖人の言葉は何と「彼は榮ゆへく、我は衰ふへし」でした。洗礼の祝いにこんな言葉を贈る人はあまりいないだろうと思います。学校に通えたのは小学校1年だけの僕にくださったのが、こともあろうに「カール・アダム カトリシズムの本質」でした。こんな贈りものをする人もあまりいないのでは。「解りません」と申し上げたら「読めば解る」。繰り返し読んで折角の表紙もなくなってしまいました。解ったとまでは言えないが既に第2バチカン公会議の萌芽があるように思われます。

洗礼によって新しく生まれたから名を付けます。以来それがわたしの本名になり、戸籍に記載されたわたしの名はただの「個体識別記号」になりました。識別記号がないとどの個体かわからないから責任の所在を明らかにするためにも合わせて称することが不可欠ではないかと思えます。

信徒の家には「聖書」(新旧合本)がありますか。「カトリック教会のカテキズム」は、せめてそ

- の「要約」は。靈性を保つためにも手元の本は必需品ではないでしょうか。
 少々古い本ですが手元に置けば、或いは一度読んでみればと思う書物を紹介しておきます。
- ◆門脇佳吉師訳注「靈操」岩波文庫。 李聖一「希望のアポロギア」2002年新世社。
 - ◆ヴィクトール・シオン「零点にとどまる」1997年女子パウロ会。
 - ◆カルロ・マルティニー「自分を知り神知る」2006年女子パウロ会。
 - ◆オリビエ・シェエガレ「友として司祭として」2015年フリープレス。



片柳神父出版記念講演会

六甲教会で6年間（2008年～2014年）奉仕下さった片柳神父様が、2年ぶりに神戸でお話し下さいます。

今回の主なテーマは、マザー・テレサに学ぶ愛の実践です。

最新刊『あなたのままで輝いて～マザー・テレサが教えてくれたこと』の中からシンプルで心に響くマザーの言葉を紹介して下さいます。

どうぞ皆様ご参加下さい。

日 時：6月4日（土） 14：00～15：30 講演
15：30～16：00 ミニコンサート

場 所：カトリック神戸中央教会

テーマ：「あなたのままで輝いて～マザー・テレサが教えてくれたこと」

※ 参加費無料/予約不要

教会報7月号の発行は、7月3日(日)です。
 原稿は6月19日(日)までに教会受付へ提出ください。FAX及びメールでも受付いたします。
 (広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会	
〒657-0061	神戸市灘区赤松町 3-1-21
電 話	078-851-2846
F A X	078-851-9023
発行責任者	アルフレド・セゴビア
編 集	広 報 部